

# イカナゴ情報 No.2 (2018年6月)



道総研

平成30年6月25日

道総研稚内水産試験場調査研究部 (担当: 堀本) Tel. 0162-32-7166

宗谷海峡周辺において主に沖合底びき網により6~9月に漁獲されるイカナゴ類<sup>1</sup>の漁獲物調査と漁場環境調査の結果についてお知らせします。

## 漁獲物調査: 6月は体長21~23cmが主体 小型個体も混ざる

6月の漁獲物標本を測定したところ、3~4歳とみられる体長21~23cmの個体が主体となりました(図1)。2015年は漁期初めから体長15~20cmの1~2歳魚が主体であり、2016・2017年はそれらの個体が成長したものが漁獲されていました。今年も2015年に漁獲の主体となっていたものが引き続き漁獲を支えていると考えられます。一方で、最近2年ではほとんどみられなかった1~2歳とみられる小型個体も漁獲されており、新たな年級の漁獲加入が期待されます。

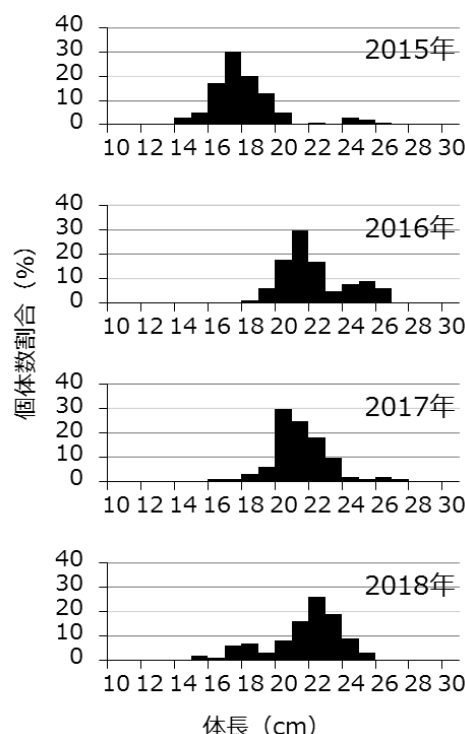


図1. 稚内港に水揚げされたイカナゴ類の6月の体長組成(2015年以降).

## 海洋観測: 水深50~80m付近の底層水温は昨年よりやや低め

宗谷海峡東方海域において6月18~21日に試験調査船北洋丸によるイカナゴ類漁場の環境調査を行いました(図2)。

観測ラインの水温断面図をみると、ラインAではO15からIS01(水深30~40m)の海域は水温8~9℃以上の水塊が占めていました。オッタートロールの主漁場となるIS02からIS04(水深50~80m)の海域の底層水温はおおむね6~7℃であり、昨年同時期と比較すると特に沿岸側(IS02)でやや低い傾向がみられました。

<sup>1</sup> イカナゴ類にはイカナゴ, オオイカナゴ, キタイカナゴの3種が含まれる(Orr et al., 2015)

ライン B でも、IS12 から IS10（水深 20~40 m）の海域は 8~9℃の水塊が占め、昨年同時期と比較すると 2℃ほど低い傾向がみられました。かけまわしの主漁場である IS10 から IS08（水深 50~80 m）の海域もおおむね 7~8℃であり、昨年同時期と比較すると低い傾向がみられました。

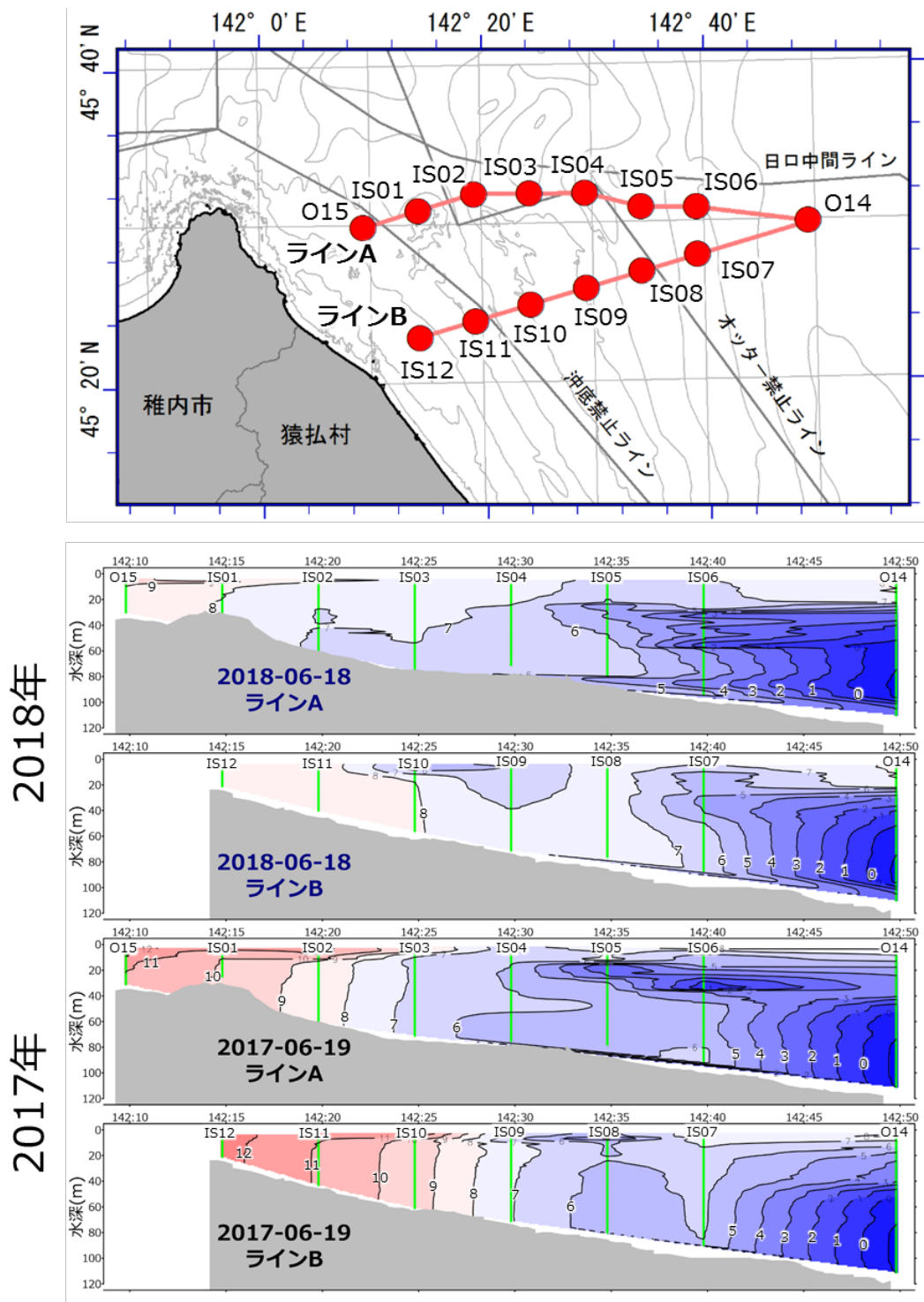


図 2. 海洋観測・魚探観測ラインの位置と水温断面図。  
昨年同時期の水温断面図も合わせて示した。

### 魚探観測：水深 40～60 m 付近に濃密な魚群反応を確認

海洋観測と同じラインで計量魚群探知機による魚群分布調査を実施しました(図3)。

ライン A では水深 40～60 m と中層 (20～30 m) 付近にイカナゴ類とみられる濃密な魚群反応が観測されました。また、ライン A では沿岸域の表層付近にもイカナゴ類とみられる魚群反応が多数観測されました。一方で、ライン B では目立った反応は確認されませんでした。

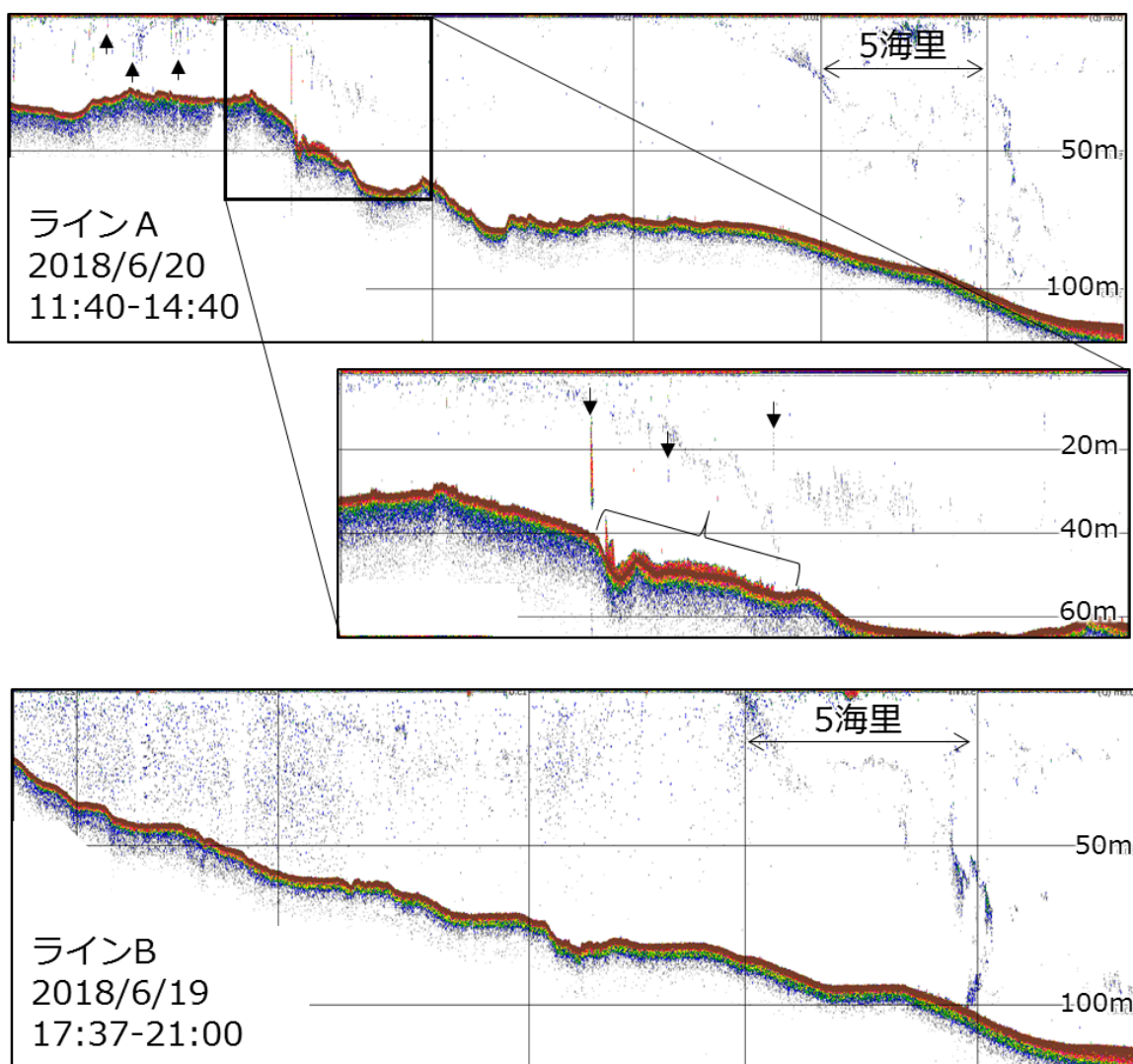


図3. 各観測ラインにおける魚探反応。中央図は上図中黒枠内を拡大したもの。沿岸域の表層付近と深度 20～30 m の中層付近 (矢印で例示)、ならびに底付近 (括弧で例示) でイカナゴ類とみられる魚群反応が観測された。